

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0872005012		
法人名	医療法人みなみつくば会		
事業所名	グループホーム筑水苑 梅ユニット		
所在地	茨城県つくば市谷田部6107-1		
自己評価作成日	2020年7月22日	評価結果市町村受理日	2020年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872005012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872005012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年9月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様が今まで暮らしてきたなじみの生活が送れるよう、本人やご家族様から話を伺い居室の中の環境や1日の生活の流れに反映させています。生活に楽しみや生きがいを感じて頂きたく、レクリエーションや行事も充実させています。職員は利用者様一人一人とゆっくり談話できる時間を設けその時の思いを汲み取ろうと努力しています。また、防災や感染症等の緊急時対応のマニュアルを作成し職員の目の届く範囲に掲示してあります。医療面では敷地内にクリニックが併設されているため医師・看護師と密に連携をとり早めの対応ができています。  
今年度は、新型コロナウイルスの為、面会等の制限を設け、ご迷惑をお掛けしました。当ホームでは、毎月撮影した写真をご家族様へ送付させて頂きました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着」を念頭に置いた、ホーム独自の「ケア理念」を作成し、掲示を行い、管理者と全職員がその理念に基づいて毎日のケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	季節の行事に地域の方々をお招きすると共に、敷地を小中学生の通学路として開放するなどして(道路が交通量多く危険な事もあり)、地域の方々に身近に感じて頂けるよう努力を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学時などにご相談が寄せられた際には、誠意を持って対応にあたり、必要があれば行政機関を紹介したり、地域の方に寄り添う支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度会議を開催している。毎回、状況報告と共に意見交換を行い、頂いたご意見は議事録にまとめ、サービスに反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者様に、毎回推進委員会へご出席頂き、事業所の実情をお伝えしている。ご指導を頂いた際は、速やかに対応し、改善に努めている。判断に迷った場合等には市役所に出向きご指導頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市の勉強会に出席するなどして、拘束について学ぶ機会を設けている。また、身体的拘束・行動制限廃止マニュアルを作成し、職員間での理解を深めるように努めている。玄関の鍵は施錠させて頂いてるが職員の付き添いのもとユニット間の行き来は自由としている。(同意書あり)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成、掲示を行い、職員の意識向上に努めている。また、虐待防止委員会を設置し、事業所内での虐待防止に努めている。不適切なケアについても職員間で話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内でも実例があり、制度について学ぶ必要性を感じている。「高齢者の権利擁護」の勉強会に出席し、知識を深めるなど行っている。行政からも積極的な利用を進められている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改定等の際には、ホーム内に改定の連絡掲示と同時に個々の家族あてに文書発送を行っている。また面会時には更に十分な説明を行い理解を頂き納得の上でサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にサービス担当者会議を開催し、ご家族のご意向やニーズをつかむ為の努力をしている。また、年1回家族会を開催し、ご家族同士の意見交換の場を設けている。ご意見を記録にまとめ、サービスに反映させて頂いている。今年は、ご家族様宛に発送しました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、基本年2回(また、必要時に随時)法人との面談が行われ、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。職員の意見が取り上げられ、改善された点も多くある。(最近では、玄関のスロープ取付などの対策)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回、管理者と法人が定例会議により話し合いの場を設けている。また、面談の際に、法人側と職員の間で細かな意見交換がなされ、良好な環境下で職務に就くことが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修へ、積極的な呼びかけを行っている。勤務の都合もあり、全員とは行かないが、市で行われる勉強会へも参加を呼びかけ、教育に努めている。今年は、新型コロナウイルスの為、予定は無し。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の地域密着型サービス連絡会の会議へ出席し、情報交換を行っている。今年は、新型コロナウイルスの為、予定は無いと言われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	24時間シートを全職員が関わって作成し利用者様の要望や困っている事、したい事出来る事を見い出し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所翌日から1週間はご家族へ本人様の状態報告を電話にて提供させて頂いている。また入所後も、ご家族の要望を伺い心配がないよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の支援したい事、して欲しい事、利用者様のして欲しい事、したい事などをアセスメントシート、ご家族の支援計画表などから担当者との、話し合いの中で必要な支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることを役割として行って頂き職員から感謝を伝えることで尊厳を守り主体的な生活を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議に積極的に参加して頂き、情報共有を行っている。『一緒に利用者を支えていく』と言う思いで、ご家族も含めた「チームケア」に取り組んでいけるよう、信頼関係の構築に努めている。面会時には日常の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を忘れないよう、会話の中にさりげなく入れている。また地域の方や連絡会議などの紹介からボランティアの受け入れを積極的に行っている。今年は、新型コロナウイルスの為、受け入れていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士を隣の席にしたりと関係を把握し、十分に配慮している。利用者同士お互い声を掛け合い居室を行き来したり助け合ったりしている場面が多く見られる。必要な場面では職員が仲介に入り円満な関係が作られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動後も面会や電話連絡をし気軽に相談できるよう心掛けている。退所された利用者様の近況をご家族から頂いたり、面会に出向いたりしている。又音楽や番組の録画テープを持参して下さる家族の方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で利用者様の言動や表情から思いを汲み取り意向の把握に努めている。困難な場合にもできるだけ声をかけ反応に柔軟に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族よりご本人の生活暦をシートに記入して頂いている。また、それまで利用していた施設・病院等からも協力して頂くなどして、様々な視点からご本人を知るための情報把握に努め、その人らしい生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動や発言、心身の変化に関わるものなど細かな事を、毎日、個別のケース記録へ記入し、全職員が把握出来るよう努めている。できる事を見出し、生活リハビリなど、能力を生かす場面を設けられるよう心掛けて支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でケアミーティング時に情報交換を行いモニタリングに反映している。それをもとに家族の思いや主治医と話し合いを行い利用者の「今」に一番必要なケアプラン作成の為に、関係者全員で介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『本人の状況』と『サービスの実施』を分けて記入する形式の用紙を用い、状況把握と情報共有に努めている。介護計画を実践出来ているかを確認するため、ケース記録に介護計画の項目毎に振った番号を記入する欄を設け見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と密なコミュニケーションを取り、素直な思いや、ご希望をお伝え頂けるよう関係の構築に努めている。予定日以外の入浴や、ご家族がご希望されるレクリエーションの提供など、柔軟に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長や民生委員を通し、運営推進会議や行事参加などの連携をとっている。また、つくば市のボランティアを受け入れ気軽に来苑して頂きカラオケ等楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族によりかかりつけ医の選択は自由であり家族の希望に沿ったものになっている。受診記録を作成し本人や家族・職員・医療機関などが医療情報を共有し、緊急時に備え情報がきちんと伝達できるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師が随時健康観察を行い、職員との情報交換を図りながら利用者の状態把握に努めている。職員は看護師の連絡ノートに常に目を通し、利用者様の体調悪化の際には早い対応が出来るよう信頼の関係構築が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人とご家族への励ましの意味も含め、入院時の面会は可能な限りまめに行わせて頂いている。病院関係者より、入院中の様子などについて情報を得るなどして、退院時に、ホームで引き続き必要な対応を取らせて頂けるよう関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化の指針」を作成し、ご家族へ説明を行い、ご理解を頂いている。重度化した場合には、ご家族のご意向を尊重し、主治医とも連携を図り、今後の事を考えていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員に教育を行っている。消防署の協力を得て、心配蘇生法などの訓練も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成し、職員に教育を行っている。地域住民の方(向かいに建つ、会社の社員寮)とも書面を交わし、有事の際に協力頂けるよう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人ひとりの人格を尊重し呼び方や言葉遣いに注意している。定期的にミーティングで話題に挙げ丁寧な声かけができるよう職員間で統一を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには、常に傾聴の姿勢で接し、思いのままを伝えて頂けるよう努めている。困惑される方には選択肢を用意するなど自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後、眠たそうな利用者に臥床を促したり、グループ体操の時間、散歩を希望される方に個別対応を行ったり、個人のペースに着目し、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今年は新型コロナウイルスの為、2ヶ月に1回、地域の理容師の方に訪問散髪を依頼している。希望により移動美容室でのカラーやパーマも行なっている。その日の気分に合わせて服装などを利用者と一緒に談話しながら選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けは利用者が積極的に役割を担っている。季節の行事ごとに利用者の食べたい物を聞きながら宅配を注文したり外食の予定を立て楽しんで頂けるよう配慮している。最近、新型コロナウイルスの為、宅配も外食も控えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスの取れた食事の提供を行なっている。摂取量は毎日記録し、水分量には特に注意し、声掛けやご本人希望で温かい物や冷たい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回、訪問歯科による口腔ケアと指導を受けている。毎食後声掛けをし習慣化している。本人の状態や力を把握しながら、その人に合った対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24hの排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。本人の行動を良く観察して排泄のサインを見逃さない、尿意のあまりない方へは間隔を見て声かけするなど、失敗なくトイレでの排泄が叶うよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の際は、冷たい牛乳を提供するなどの対応を行っている。日頃から、まめな水分提供を行ない、また、薬に頼らず体操や散歩で体を動かす機会を設け、排便を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めず、希望があったり拒否がある場合はその都度対応し、週3回を目安に入れるように配慮している。 本人の思いに寄り添いながら、清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外に出て日に当たる機会を設けたり、活動的に生活を送り、気持ちよく眠りに入れるよう支援している。不安の訴えががある時は傾聴し寄り添う時間を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を事務所に保管し、職員が確認出来るようにしている。処方に変更があった際は日誌に記入し、全職員が把握できるように努めている。薬局との連絡・連携も密に行い、薬の飲み方や効果などについて指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦を知る為に家族や本人より情報提供を頂き、得意なこと好きなことなど、能力や趣味に沿った支援を行っている。作品を壁に掲示したり家事への参加は職員から感謝の意を伝えるなどして充実感を感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今日は天気が良いな」と言う利用者の言葉を受けて積極的に外気浴や散歩の機会を設けている。敷地内にある池に鯉のえさやりを行っている。外食やご家族と一緒に外食等も新型コロナウイルスの為、控えている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、ホームにて預かり金と言う形で管理させて頂いている。月に2度、移動売店を頼み、菓子など、好みの品を自分で選んで購入する事の出来る場を設けている。今年は、新型コロナウイルスの為、利用者様に選んで頂くことは、控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった際など、ご家族様へ電話の取り次ぎを行い、お話し頂けるよう支援している。また、ご家族様から手紙を手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の掲示物を作成し飾る、旬の花などを職員が持ち寄って飾るなどして、季節感の演出を行っている。また、建物周辺には木々が多く共同室や居室からの窓より季節の移り変わりを感じられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間を過ごして頂けるように、廊下の端に椅子を配置し、ひとりになれる空間を作っている。また、仲の良い利用者様同士、ソファで談話して頂けるように雰囲気作りやセッティングなどに工夫をし支援している。さらに、テーブル席は自由に会話できるように配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室は、入居時に、タンスや机など使い慣れた物を持参頂き、「ここが自分の居場所」と思える環境作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に洗面台がついており自立した生活が送れるよう活用している。できるだけ障害物はおかないようにしている。テーブルの位置などに配慮しながら導線を確保し、安全に移動ができるようにしている。		